

第46回(2023年度)全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会【戦評】

会場：千葉県国際総合水泳場

【2024/3/30】

この試合のプレー集計

B3位

白山市立松任中

5

1	—	3
1	—	2
1	—	3
2	—	3

11 千葉水球クラブ

PSO

永井 敦

審判:

榎淵 祐希

白山市立松任中	21	SH数	15	千葉水球クラブ
	4	速攻数	2	
	9	ST・SB	11	
	11	SH・P誘発アシスト	10	
	8%	GK阻止率	67%	
	6	EX反則数	4	

ST・SB:ボール奪取・SH阻止

この試合までのチーム集計	Shoot	得点	P・EX	誘発PE	Sアシスト	Steal	速攻	コントラ	失点	GK阻止率
白山市立松任中	156	77	30	43	49	85	15	16	56	32.5%

(7試合計)

この試合までのチーム集計	Shoot	得点	P・EX	誘発PE	Sアシスト	Steal	速攻	コントラ	失点	GK阻止率
千葉水球クラブ	104	46	30	23	25	53	20	13	30	50.0%

(5試合計)

【試合の流れ】

今大会の予選から準々決勝あたりまでは好調だった松任中。準決勝のカワサキ戦ではそれまでと比べて攻守のバランスが崩れ、やや下降気味。対する千葉水球は厳しい準々決勝の石川イーグル戦を制したが、大垣市水球クラブには歯が立たずこの3位決定戦に。千葉水球は石川の2チーム両方との対戦となった。下降気味の松任中は得点力のある②前田を軸に序盤で優位に試合を進めることがカギとなる。

【1P】

千葉水球は③今野のボール奪取から攻め上がり、⑬傍嶋がセンターSHを決めて先制(3:55)。続けて、⑫中野がボールスチール、そこから②上柿がセンターで退水を誘発して⑫中野が決めて2点目(3:05)。さらに、またもや⑫中野がスチールして、⑬傍嶋が左サイドからのドライブSHを決めた(2:38)。松任中は千葉水球の中盤プレスに完全にのまれてしまったの3連続失点。下降気味のチーム状態がそのまま試合に現れてしまった。ピリオド終了前に、千葉水球のオフェンス反則から1-0速攻で③徳田が決めて第1ピリオド終了(松任中1-3千葉水球)。

【2P】

センターボールを千葉水球⑫中野が取り、そのまま中央突破。⑩星山からのパスを受けた⑫中野が決めて再び3点差。その後、松任中は得点源の②前田にボールを集めてシュートを放つが、千葉水球GK①村山に阻まれて得点に至らない。その中、松任中③徳田のパスカットから②前田のシュート、これはコーナーになったが、トップ位置の④砂田が切れのあるシュートを決めて松任中2点目。しかし、松任中②前田のシュートミスから今度は千葉水球センター④高野が決めて松任中2-5千葉水球で前半を折り返した。松任中は千葉水球のプレスに手こずり、②前田も前半6本のシュートが決まらないという状況をどこまで後半に改善できるか。

【3P】

巻き返しを図る松任中。②前田が退水を誘発するがシュートがポスト。逆に、千葉水球のアーリーオフェンスから⑩星山がペナルティを誘発、そこを⑫中野が決めて6点目。松任中は千葉水球のオフェンス反則から②前田が左サイドから持ち込んで1点を返したものの、その後は退水を連続して喫してしまい松任中3-8千葉水球と点差を広げられてしまった。

【4P】

一進一退の攻防が続いたが、松任中②前田のボールスチールからの速攻を⑦本田が決めて4点差に詰めた。さらに、千葉水球のオフェンス反則から⑫北谷がペナルティを誘発し、自身で決めて松任中5-8千葉水球と3点差に迫った。しかし反撃もここまで。最後は千葉水球の泳ぎについていけず、3連続失点で試合終了。松任中5-11千葉水球で千葉水球が第3位となった。